

凜々しく ～附属小温故創新～ 2017/11/6 No. 32

やらされる研究から自分たちでやる研究へ

3連休を終えて、気持ちのよい週明けとなりました。朝の校庭ではいつもの元気な子どもたちの歓声が響いていて、「今週もさあやるぞ!」という気持ちが高まってきます。この連休は実家の草刈りや植木の剪定に汗を流しました。また、時間を見つけて冬タイヤに交換し、今流行りの「ドラブレコーダー」を付けてみました。

(※先生方も冬タイヤの早めの装着を!)

さて、11月2日仙台駅前の某居酒屋で「移動算数部会」を開催しました。

冒頭話題に上がったのが同日行われた外国語の授業研修会の事後検討会の様子でした。前回に引き続き活発な意見交換が行われた、ということを知りました。私は校長会に参加のため出席できず大変残念に思いました。同時に研究主任の俊宏先生からは

「あの雰囲気議論ができるようになればもっと話し合いの質が深まり、研究の質も深まると思っています。」

という発言がありました。的を射た本質的な指摘です。そのためには、何を話し合うのか、という「話し合いの柱」をしっかりと設定する必要があると思います。共同研究に基づいた授業では各教科の視点や手立てが子どもの姿を通して具体的に議論されるので、その課題は解消できるものと思います。共同研究4年目の全校授業は外国語公開後に始動します。ぜひ4年目の研究の深まりに期待したいものです。

算数部の「移動部会」では、今後の算数の研究の進め方も大きなテーマでした。その一つが算数部からもつと情報を発信できないか、ということでした。お酒の力も借りて様々なアイデアが出されたので、1つでも実現できれば素晴らしい実践につながると思います(多分)。

また、先日はある先生が「副校長先生、大牟田の教育長先生が、よろしくっておっしゃってましたよ。宮教大附属小と言えばESD。仙台市の方々もでもぜひ、附属小にその役割を期待している、とのことでした。」と教えてくれました。大牟田市では12月にESDの全国大会があって見上学長からの計らいで本校からも拓郎先生と、渡部先生に参加してもらうことになっています。

さらに、22日からは、堀之内先生と孝徳先生が、日本国際理解教育学会国際委員会の学校現場における道徳・国際理解教育の実践を目的に中国北京への海外研修に出かける予定になっています(日中「異己」理解プロジェクト公開授業研究会 史家小学校)。

その気になれば「やれることがたくさんある」のが附属小で、それが「受身」になるとつらいのが附属小でもあります。

11月17日には3年目のまとめの外国語の研究会があります。自分の専門の教科を持ちながら、このように全職員で真摯に外国語の研究や授業づくりに取り組めるのは本校の先生方だからこそだと思います。そして、これまで外国語の研究に取り組んできたことはこれから始まる各教科の研究にもきっとよい効果を発揮するものと思っています。朝晩寒暖の差が激しくなってきました。体調管理には十分に気をつけて、今週もたてわりロング、入学選考等取り組んでいきましょう。
(文責:副校長 手代木)